

広
報

ちくしの

戦後80年 ～ある高校生の平和をつなぐ活動～



被爆直後の長崎の写真を見て、色や臭いをも感じた。」と言った高校生がいます。地域の子ども会で、人権や平和について学んだ伊藤愛里さんは、平和運動団体の「高校生平和大使」に応募し、筑紫野市からただ一人の長崎研修代表生になりました。そして今、さまざまな活動を行っています。



林 重男氏 撮影
長崎原爆資料館 所蔵

あなたはこの写真から
何を感じますか

7月13日、天神ソラリア前で「核兵器廃絶と平和な世界の実現をめざす高校生一万人署名」を集める活動をしました。

8月7日～9日、長崎に行きました。

研修会の中で、原爆症の認定の問題、発症する不安や差別の問題、若い世代への願いなど、さまざまな話を聞くことができました。

これから当事者の気持ちを考え、平和な世界になるように次のような活動をしていきたいと考えています。

○署名活動を続ける。

○長崎研修代表生の経験を小中学生に伝えていきたい。

○筑紫駅銃撃事件など地元の戦争体験談も引き継いでいく。

その他にも、世界のニュースにも関心をもっていきたいと思います。



高校生平和大使派遣委員会より



平和なくして人権なし 人権なくして平和なし

- ビジネスと人権2
- 災害と人権3
- 障がい者の自立と社会参加の充実4
- カルタにまなび カルタでカタル5
- 同調圧力と向き合うには6
- いつまでも安心して暮らせる社会へ7